

## スーダン型ソルガム新品種「涼風」を活用した 獣害軽減型の高栄養粗飼料生産体系

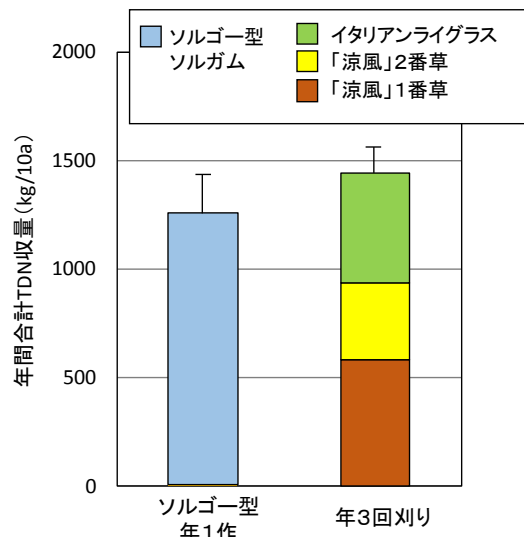
我が国本州以南では、夏作トウモロコシと冬作飼料作物を組み合わせる二毛作が主要な飼料作物作付体系となっています。しかし、近年、中山間地等ではクマ等によりトウモロコシの雌穂（実）が食害を受ける獣害が問題となっています。こうしたことから、トウモロコシの代替作物として、高消化性遺伝子を有するスーダン型ソルガム新品種「涼風」を活用し、イタリアンライグラスと組み合わせる獣害軽減型の年3回刈り栽培体系を開発しました。

### ☆ 技術の概要

1. ソルガム類はトウモロコシのような雌穂がなく、クマ等による獣害を回避できます(写真)。
2. ソルガム新品種「涼風」は、5月～9月の作期において適期に2回刈りを行うことで、可消化養分総量（TDN）60%以上の高品質粗飼料を得ることができます。イタリアンライグラスと組み合わせた年3回刈り栽培の年間合計 TDN 収量は平均 1,443kg/10a で、従来の獣害軽減型の作付けであるソルゴー型ソルガム年1作より、TDN 収量は 15%増加します(図)。
3. 年3回刈り栽培は牧草用の収穫調製機械のみで省力的に収穫調製が可能であるため、飼料生産コストの低減に有効です。飼料作面積 17～20ha の酪農経営モデルでの試算では、面積の約半分年3回刈り栽培を行う場合の経営全体の TDN 当たりの平均生産費は 77 円でトウモロコシ主体（91 円）より 15%低いという結果が得られています。



写真：クマ出没が確認されたものの被害が生じなかった「涼風」圃場



図：獣害軽減のソルゴー型単作慣行法とスーダン型「涼風」利用年3回刈り栽培の TDN 収量の比較

### ☆ 活用面での留意点

1. 本研究結果の詳細は以下の URL よりダウンロード可能です。  
[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/pub2016\\_or\\_later/pamphlet/tech-pamph/072075.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/pub2016_or_later/pamphlet/tech-pamph/072075.html)

(農研機構 畜産研究部門 飼料作物研究領域 菅野 勉)